

この学校にわたしたち

2022. 04. 21 N03

「図」と「地」について

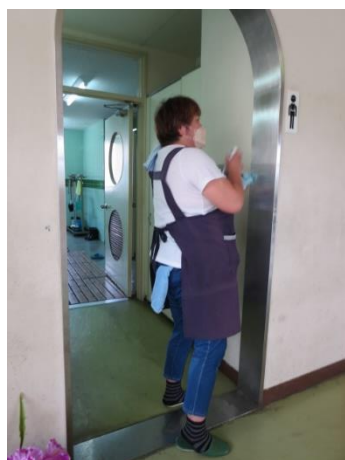
私は随分前に不登校の児童を支える母親と出会って以来、カウンセリングについて少しですが学び、ボランティアで教育相談に携わっていた時期がありました。その頃、松阪市で行われた講演会を聞きにいったことがありました。その中で、桑原知子（京都大教授）さんという臨床心理士の方が「子どもをみるときに、悪いところばかりを直してよい子にしようとするのはよくない。その子全体をみていかないとその子をだめにしてしまう。」と話してみえたことがありました。



もうずいぶん昔に読んだ本のことですが、心理学では注意の向いているところを「図」といい、注意の向いていないところを「地」というそうです。右の絵を見て黒い部分に注意が向いていると何も分かりません。しかし、白い部分に注意が向くと「ココロ」という文字が浮かび上がってきます。このことは教育において非常に重要なことだと思います。子どもたちの欠点を「図」にしているとその子の長所が「地」となり、良さを見落としてしまいます。そうすれば、子どもたちも成長できなくなってしまうのではないのでしょうか。古い話でお分かりになる方は少ないと思いますが、昔、ソースのテレビのCMで「値段は高いがいい味です」という言葉がありました。大人も子どもも誰もが、長所も欠点も持ち合わせている筈です。とにかく、悪いことが気になるのは大人も子どもも同じだと思います。

しかし、子どもは大人を映す鏡であると言われます。自分や人のよいところを見つけることは大変なことかもしれません。でも、子どもたちがクラスの友だちの長所を「図」としていくためにまず、私たち大人が一人一人の子どもたちの良さを「図」にしていけるように気をつけていきたいものだと思います。

環境ボランティア活動として



新型コロナウイルス感染防止の観点から、現在、トイレ掃除では児童は床のほこりを箒ではいたあと、水を流しながらタイルをきれいにすることのみを行っています。児童に便器を掃除をさせていないのですが、6年生上村 経仁 さんのお母さんが自ら申し出ていただき、昨年度に引き続き、毎週水曜日にすべてのトイレの清掃をしてもらっています。

おかげでいつもにおいもなく気持ちよく児童がトイレを使うことができます。本当にお世話になります。ありがとうございます。保護者や地域の皆様には図書館ボランティアをはじめ、少ない学校の職員だけでは対応が難しいところを、今後も様々な場面でご支援いただけますと大変助かります。

また、子どもたちにとっても保護者や地域の方に見守られて学校生活を送っていけることは非常に大きな意味があることと考えています。今後ともよろしくお願いします。